

伊賀市障がい者福祉計画策定のための
アンケート 調査結果報告書
【速 報 版】

令和8年3月

I 調査の概要

「第5次障がい者福祉計画」の策定にあたり、障がいのある人の生活状況や福祉サービスの利用状況、利用意向、意見などを把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的に、令和7年11月～12月にアンケート調査を実施しました。

1 調査対象地域 伊賀市全域

2 調査対象者

障がい者調査	令和7年11月1日現在、市内在住の市内在住の18歳以上の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者、サービス利用者の中から2,726人を無作為抽出
障がい児調査	令和7年11月1日現在、市内在住の18歳未満の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者、サービス利用者の中から278人を無作為抽出
その他市民調査	令和7年11月1日現在、市内在住の障害者手帳を持たない16歳以上の市民の中から2,000人を無作為抽出

3 調査期間

令和7年11月19日～令和7年12月5日

4 調査方法

郵送配布・郵送回収及びWEB回答による調査

5 回収状況

調査票の種類	A 配布数	B 不達 (宛先不明)	C (A-B) 有効配布数	D 回収数				E 無効回収数 (白票)	F 有効回収数	D/C 回収率	F/C 有効回収率
					郵送	web	web率				
障がい者調査	2,722	13	2,709	1,432	1,285	147	10%	1	1,431	52.86%	52.82%
障がい児調査	278	0	278	118	81	37	31%	0	118	42.45%	42.45%
市民調査	2,000	6	1,994	716	603	113	16%	1	715	35.91%	35.86%
eモニター（市民調査の参考意見として把握）	995件	—							101件		—
	5,000	19	4,981	2,266	1,969	297	13%	2	2,264	45.49%	45.45%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。
- ・市民調査の結果については、参考意見として聴取したeモニターの回答も含んでいます。

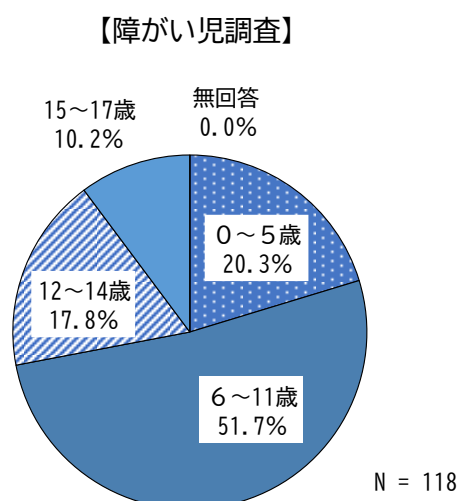
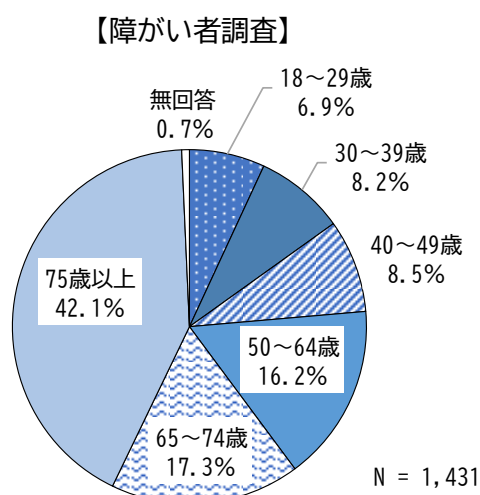
Ⅱ 調査結果（抜粋）

目標Ⅰ 一人ひとりに応じた生活支援のしくみをつくる

回答者の属性等について

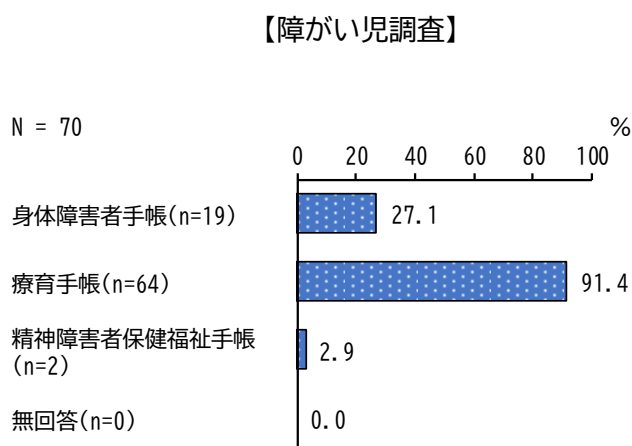
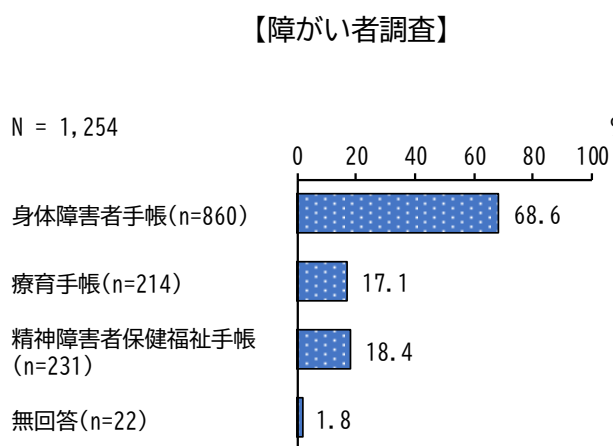
問 あなたの年齢は、令和7年11月1日現在、満何歳ですか。（SA）

『障がい者』問1 『障がい児』問1



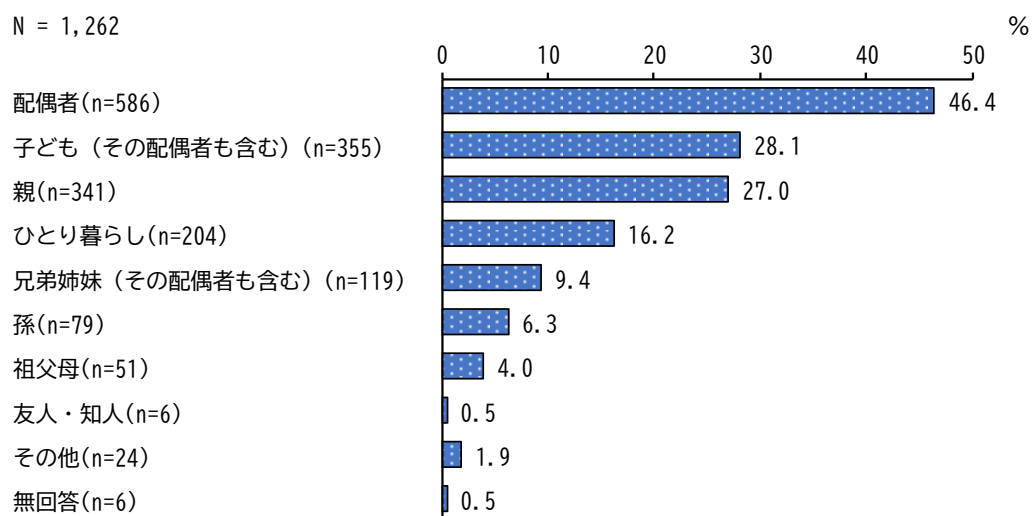
問 あなたの持っている障害者手帳の種別は次のどれですか。（MA）

『障がい者』問3 『障がい児』問3



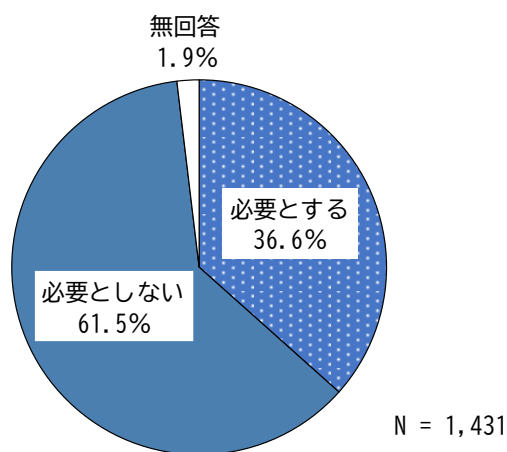
問 あなたは、現在だれと暮らしていますか。(MA)

『障がい者』問7



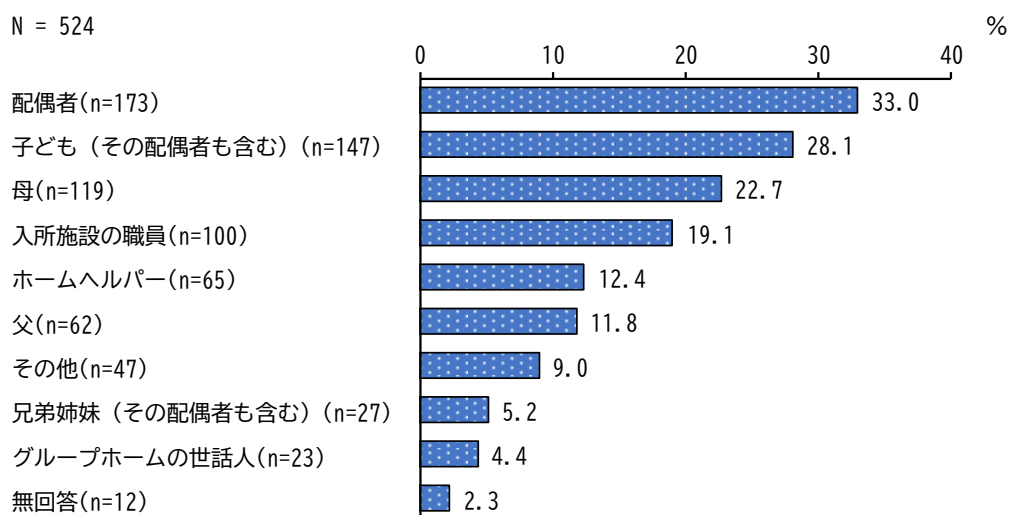
問 あなたは、日常生活の中で介護または介助を必要としますか。(SA)

『障がい者』問13



問 あなたの介護・介助者はだれですか。(MA)

『障がい者』問14



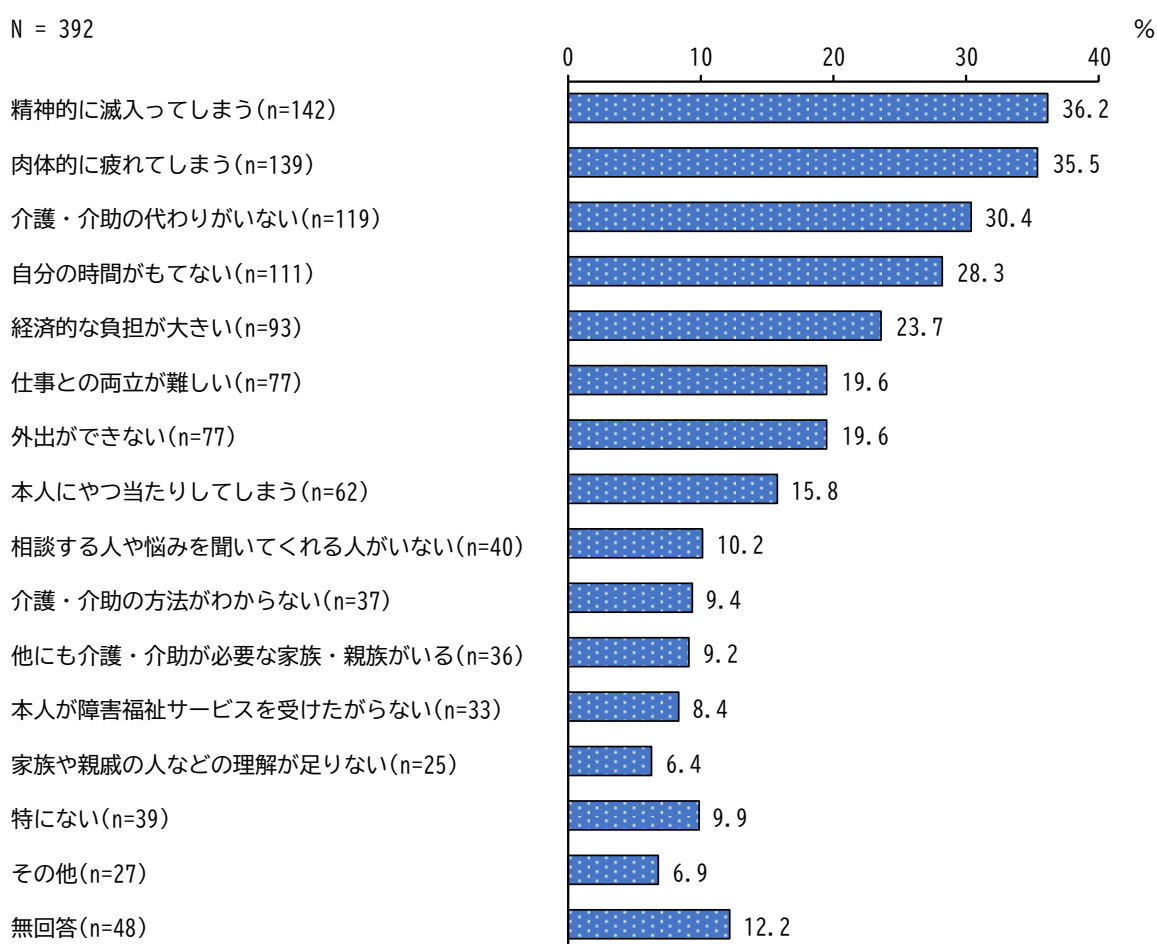
問 介護・介助者の方が、困っていることについて教えてください。(MA)

『障がい者』問 19

- 「障がい者」では『精神的に滅入ってしまう』が最も高く、これに『肉体的に疲れてしまう』『介護・介助の代わりがない』『自分の時間がもてない』『経済的な負担が大きい』の順に高くなっています。介護・介助者に負担が集中していることがうかがえます。
- 障がい種別でみると、「身体」では『肉体的に疲れてしまう』が最も高く、「知的」「精神」では『精神的に滅入ってしまう』が最も高くなっています。また「精神」では『相談する人や悩みを聞いてくれる人がいない』が他に比べて高く、3割を超えています。

【障がい者調査】

N = 392



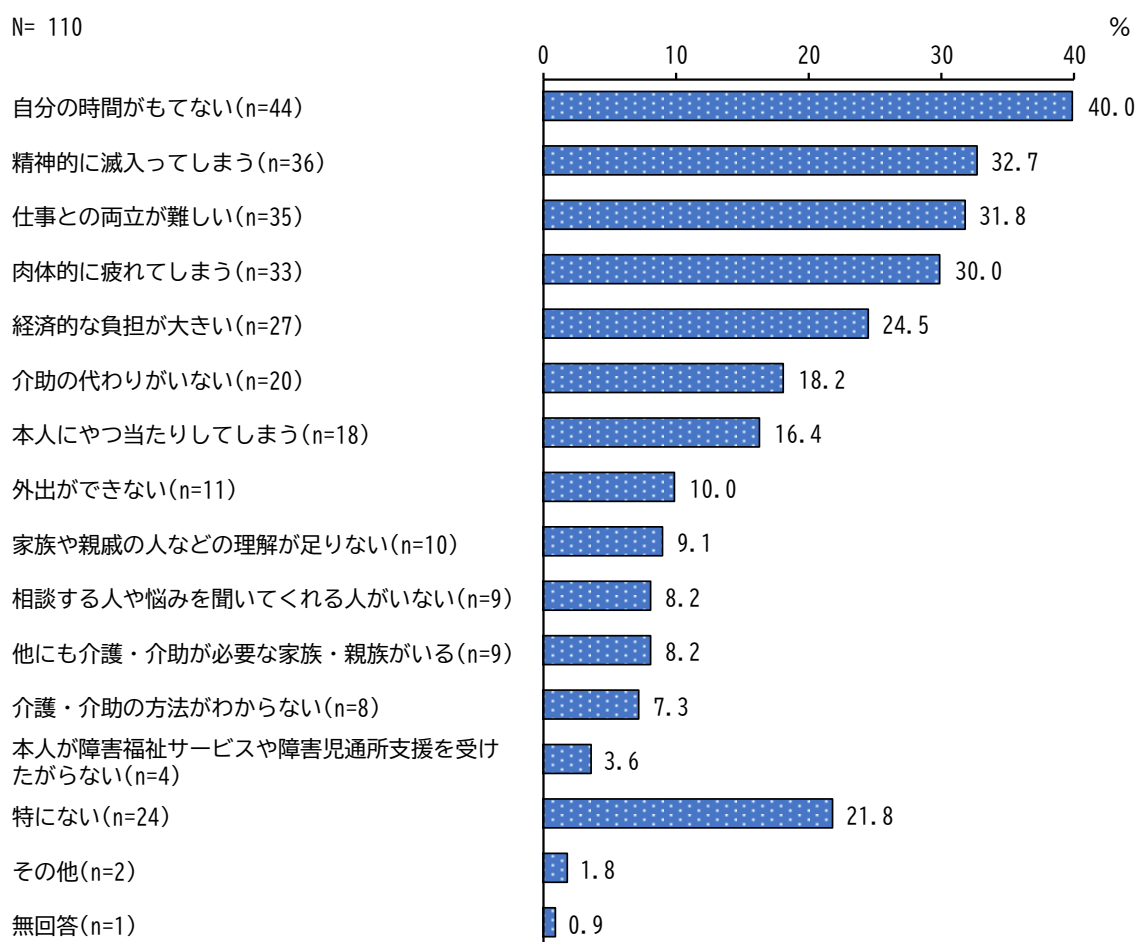
問 主に介護・介助される方が、困っていることについて教えてください。(MA)

『障がい児』問9

- 「障がい児」では『自分の時間がもてない』が最も高く、これに『精神的に滅入ってしまう』、『仕事との両立が難しい』と続いています。
- 障がい種別でみると、「身体」では『仕事との両立が難しい』が最も高く、「知的」では『自分の時間がもてない』が最も高くなっています。

【障がい児調査】

N= 110

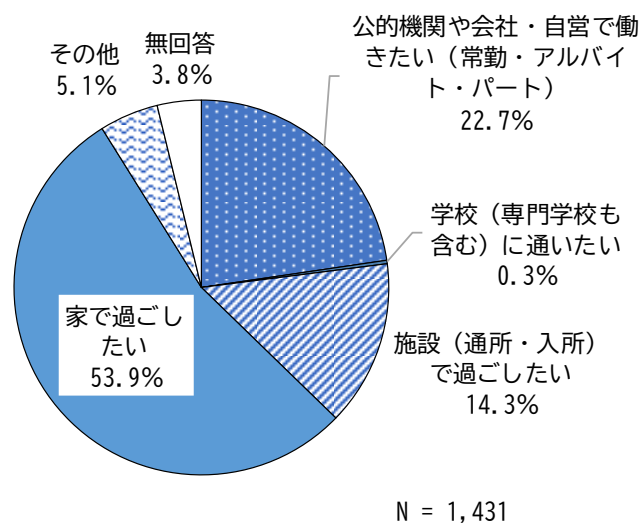


問 あなたは、今後、平日の昼間の時間をどのように過ごしてみたいと思いますか。(SA)

『障がい者』問 11

- 平日昼間の過ごし方についてみると、『家で過ごしたい』が5割を超えて最も高く、これに『公的機関や会社・自営で働きたい（常勤・アルバイト・パート）』『施設（通所・入所）で過ごしたい』が続いています。
- 障がい種別でみると、「身体」「精神」では『家で過ごしたい』が、「知的」では『施設（通所・入所）で過ごしたい』が最も高くなっています。

【障がい者調査】



外出の状況について

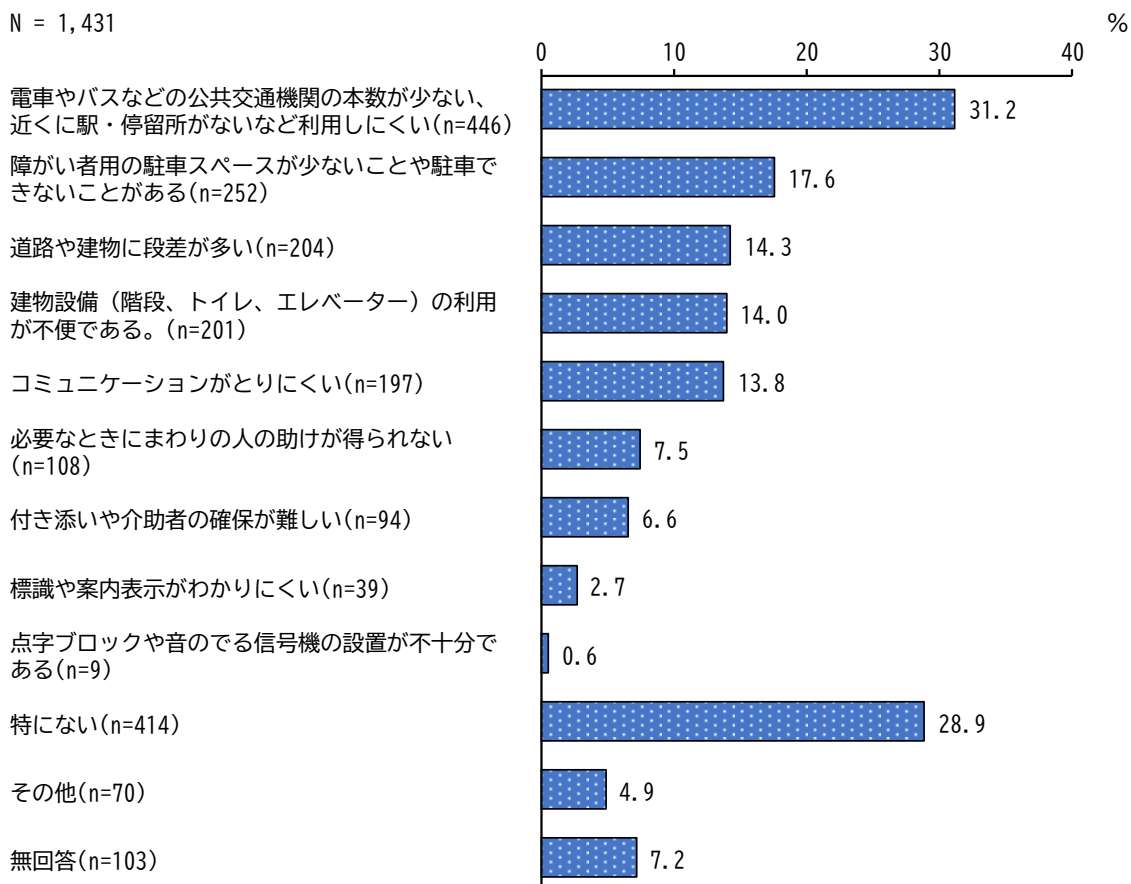
問 あなたが外出する時に、困ることや不満に思うことは何ですか。(MA)

『障がい者』問 22 『障がい児』問 12

- 「障がい者」では『電車やバスなどの公共交通機関が、本数が少ない、近くに駅・停留所がないなど利用しにくい』が最も高く、『障がい者用の駐車スペースが少ないことや駐車できないことがある』、『道路や建物に段差が多い』と続いています。一方、『特にない』と答えた人も 28.9%います。
- 障がい種別でみると、「身体」「精神」では『電車やバスなどの公共交通機関の本数が少ない、近くに駅・停留所がないなど利用しにくい』が、「知的」では『コミュニケーションがとりにくい』が最も高くなっています。
- 「障がい児」では『コミュニケーションがとりにくい』が最も高く、『電車やバスなどの公共交通機関の本数が少ない、近くに駅・停留所がないなど利用しにくい』、『必要なときにまわりの人の助けが得られない』と続いています。一方、『特にない』と答えた人も 32.2%います。

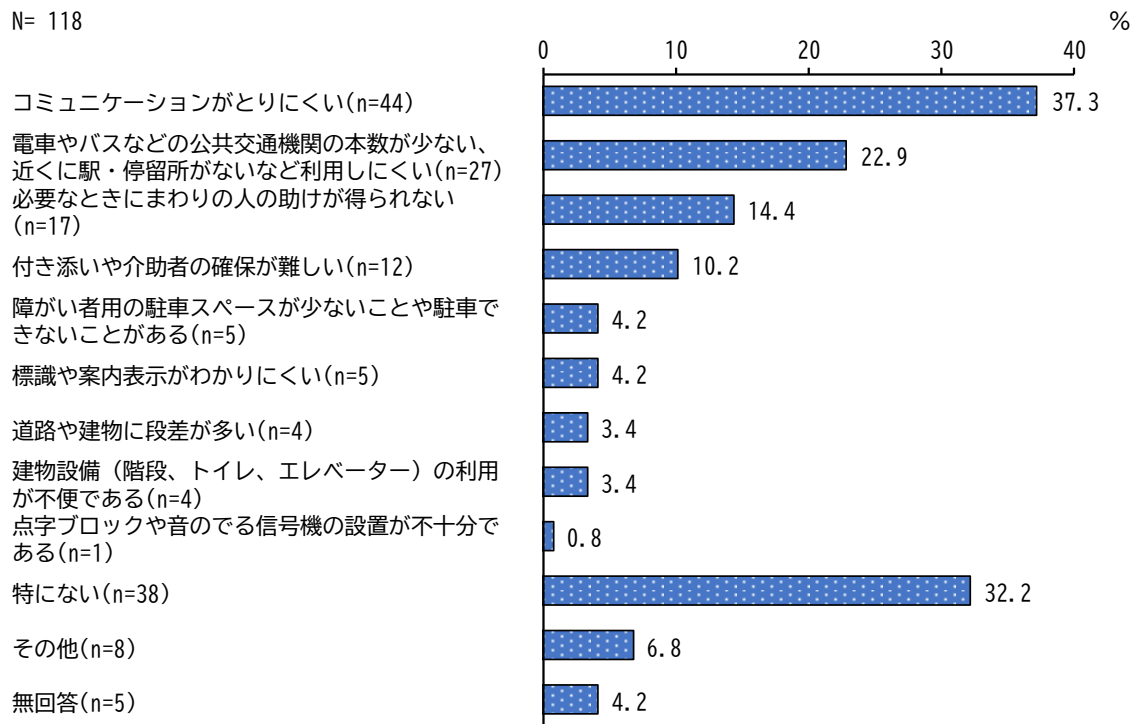
【障がい者調査】

N = 1,431



【障がい児調査】

N= 118



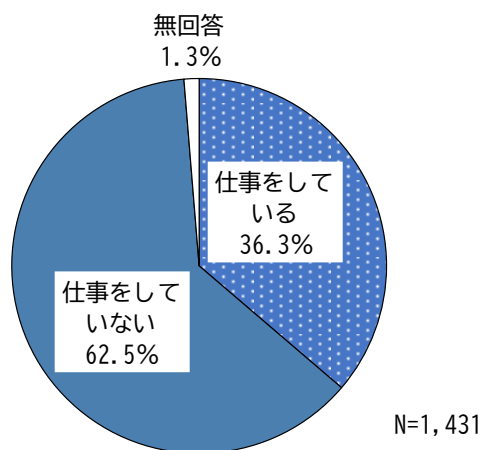
就労の状況について1（障がい者調査のみ）

- 『仕事をしている』と答えた人は3割半ばとなっています。
- 障がい種別でみると、「身体」では約7割、「精神」では約5割で『仕事をしていない』が高くなっていますが、「知的」では『仕事をしている』の方が高く、約6割となっています。
- 年齢別でみると、18歳から64歳で『仕事をしている』の割合が高く、5割半ばから約7割となっています。

問 あなたは現在、仕事をしていますか。（S A）

『障がい者』問 24

【障がい者調査】



医療の状況について

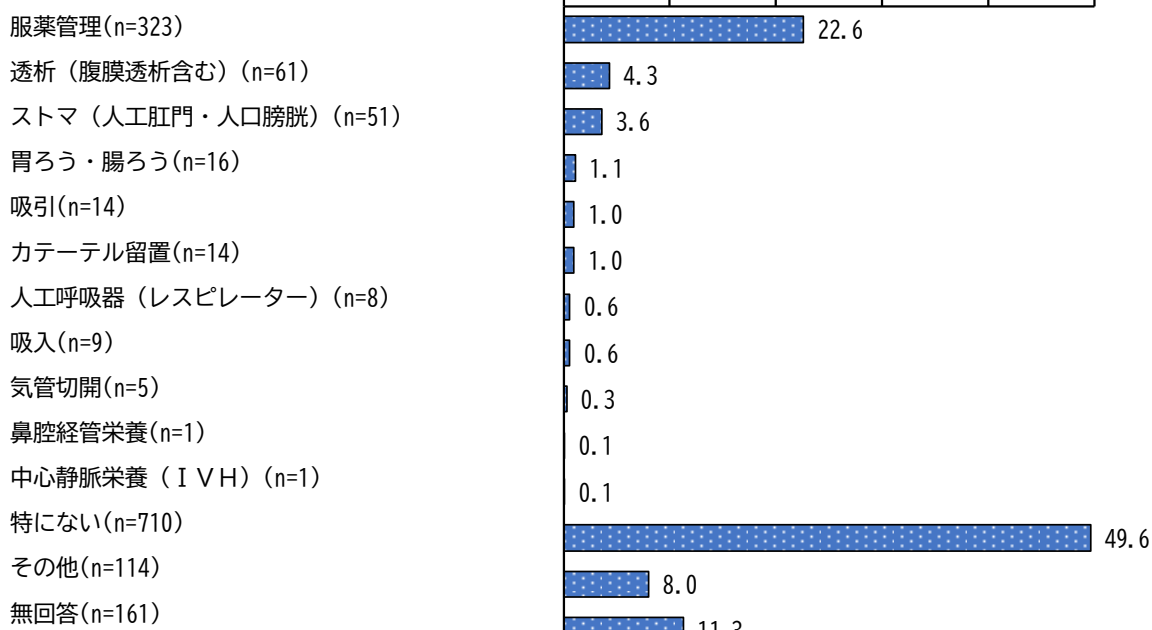
- 「障がい者」では、『服薬管理』が約2割で最も高くなっています。
- 障がい種別でみると、すべての障がいで『服薬管理』が最も高く、「身体」「知的」では約2割、「精神」では約3割となっています。
- 「障がい児」についても、『服薬管理』が約2割で最も高くなっています。

問 あなたが現在受けている医療的なケアについてご回答ください。(MA)

『障がい者』問 32 『障がい児』問 18

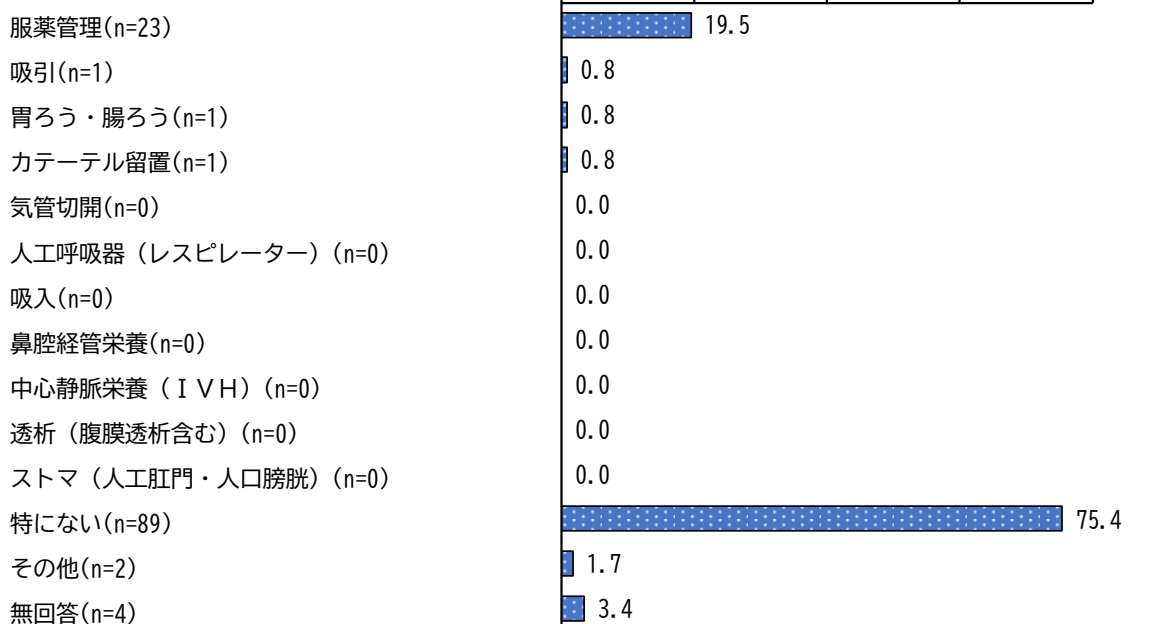
【障がい者調査】

N = 1,431



【障がい児調査】

N = 118



福祉サービスの情報や相談に関することについて

- 「障がい者」では、『家族・親族』が最も高く7割を超えています。次いで、『病院（医師・看護師・医療相談員など）』、『友人・知人』と続いています。障がい種別でみると、すべての種別で『家族・親族』が最も高くなっています。また、「身体」、「精神」では『病院』、知的では、『障がい者施設や事業所の職員』と続いています。
- 「障がい児」では、『家族・親族』が最も高く、これに『保育所・幼稚園や学校の先生』、『障がい者施設や事業所の職員』と続いています。障がい種別でみると、すべての種別で『家族・親族』が最も高くなっています。

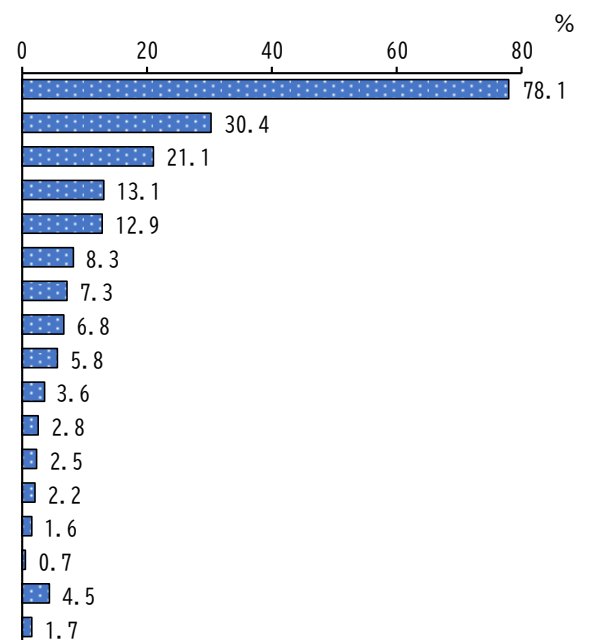
問 あなたは、困ったことや相談したいことがあるときに誰に相談されますか。（MA）

『障がい者』問 35 『障がい児』問 21

【障がい者調査】

N = 1,431

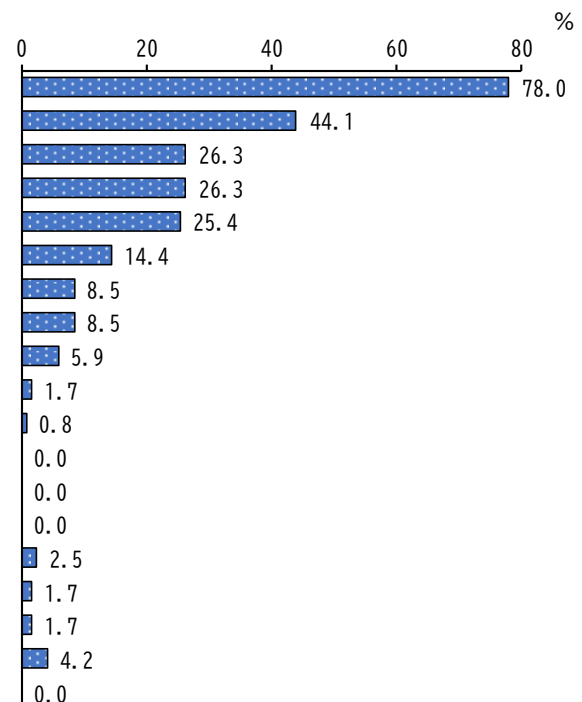
家族・親族(n=1,118)
 病院（医師・看護師・医療相談員など）(n=435)
 友人・知人(n=302)
 市役所の職員(n=187)
 障がい者施設や事業所の職員(n=184)
 相談機関の相談員（障がい者相談支援センターなど）(n=119)
 社会福祉協議会の職員(n=104)
 職場の人(n=97)
 民生委員・児童委員(n=83)
 地域の障がい者相談員(n=52)
 相談支援事業所(n=40)
 どこに相談すればよいかわからない(n=36)
 相談する人がいない(n=31)
 自分の属する団体や組織の人(n=23)
 県の機関（保健所・児童相談所など）(n=10)
 その他(n=64)
 無回答(n=24)



【障がい児調査】

N= 118

家族・親族(n=92)
 保育所・幼稚園や学校の先生(n=52)
 障がい者（児）施設や事業所の職員(n=31)
 病院（医師・看護師・医療相談員など）(n=31)
 友人・知人(n=30)
 こども発達支援センター(n=17)
 相談支援事業所(n=10)
 市役所の職員(n=10)
 障がい者相談支援センター(n=7)
 自分の属する団体や組織の人(n=2)
 県の機関（児童相談所・保健所など）(n=1)
 社会福祉協議会の職員(n=0)
 民生委員・児童委員(n=0)
 地域の障がい者相談員(n=0)
 その他の相談機関の相談員(n=3)
 どこに相談すればよいかわからない(n=2)
 相談する人がいない(n=2)
 その他(n=5)
 無回答(n=0)



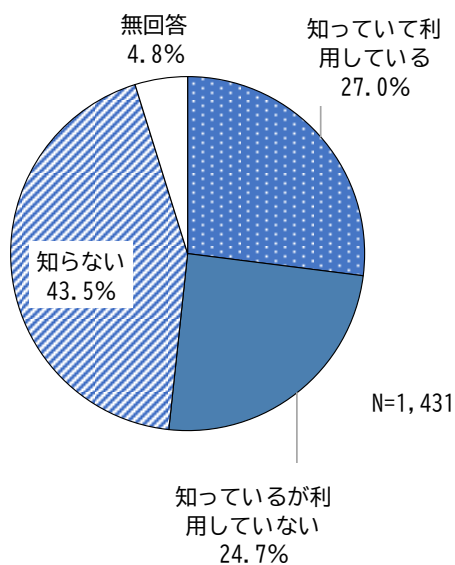
福祉サービスに関することについて

- 「障がい者」では、7割近くが『知っているが利用していない』『知らない』と答えています。理由としては、約6割が『必要がない』が最も高く、これに『どのようなサービスがあるか知らないから』『利用の仕方やサービス内容がわからないから』が続いています。
- 障がい種別でみると、「身体」では2割強、「知的」では約5割、「精神」では3割近くが『知っているが利用している』と答えています。利用しない理由としては、すべての種別で『必要がない』が最も高くなっています。
- 「障がい児」では、約9割が『知っているが利用している』と答えています。

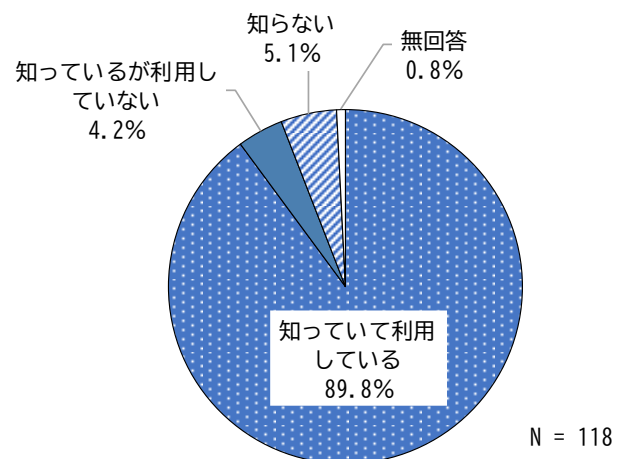
問 あなたは、（障害児通所支援及び）障害福祉サービスを知っていますか。（S A）

『障がい者』問 37 『障がい児』問 23

【障がい者調査】



【障がい児調査】

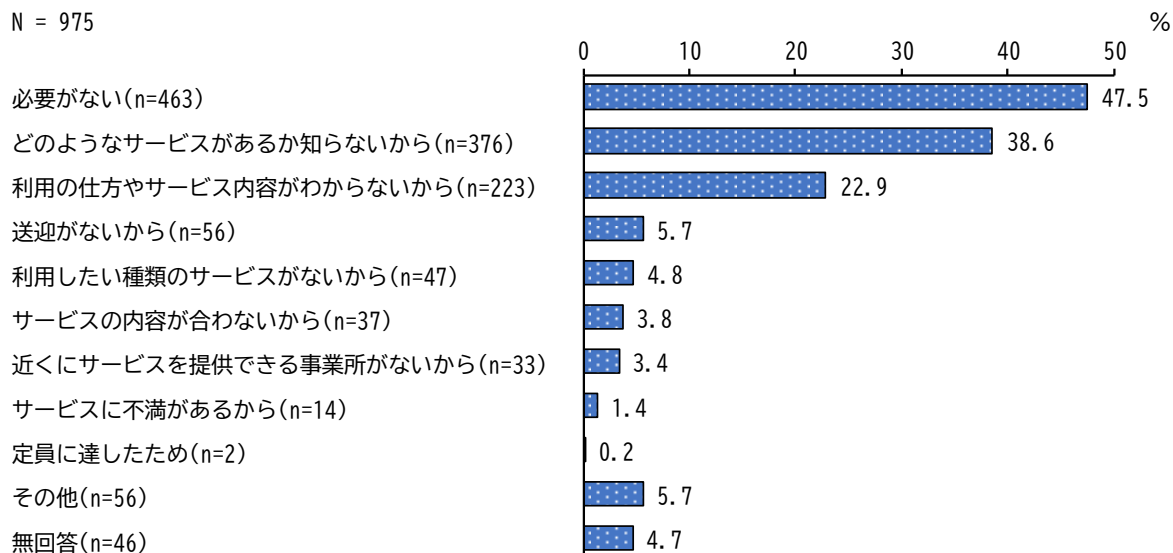


問 なぜ障害児通所支援または障害福祉サービスを利用していないのですか。(MA)

『障がい者』問 39 『障がい児』問 24

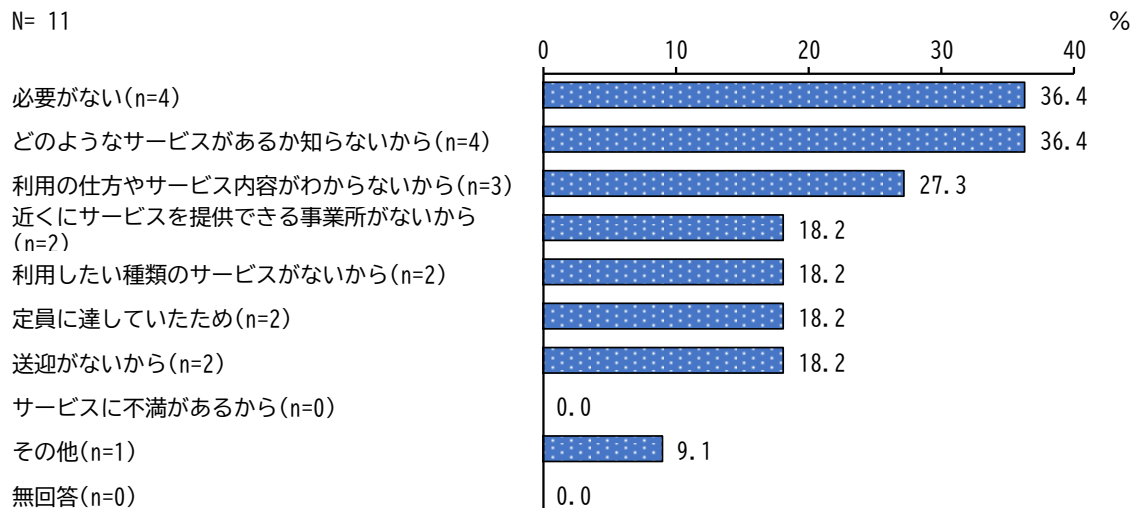
【障がい者調査】

N = 975



【障がい児調査】

N= 11



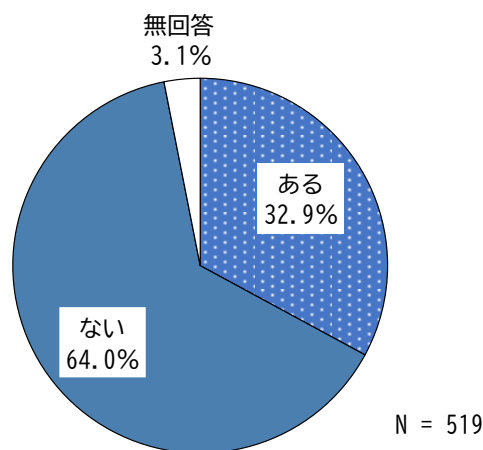
目標 II 生涯を通じて社会参加できる共生のしくみをつくる

就労の状況について2（障がい者調査のみ）

- 現在の仕事について不安や不満が『ある』と答えた人は約3割強となっています。そのうち、5割以上が『給料が安い』と答え、次いで、『職場の人間関係がよくない』と続いています。
- 障がい種別でみると、『ある』と回答した人は「精神」「知的」「身体」の順に高くなっており、特に「精神」では、およそ5割強の人が「ある」と回答しています。不安・不満の内容はすべての種別で『給料が安い』が最も高くなっています。また、「知的」「精神」では『職場の人間関係がよくない』が上位を占めています。

問 あなたは、現在の仕事について不安や不満がありますか。（S A）

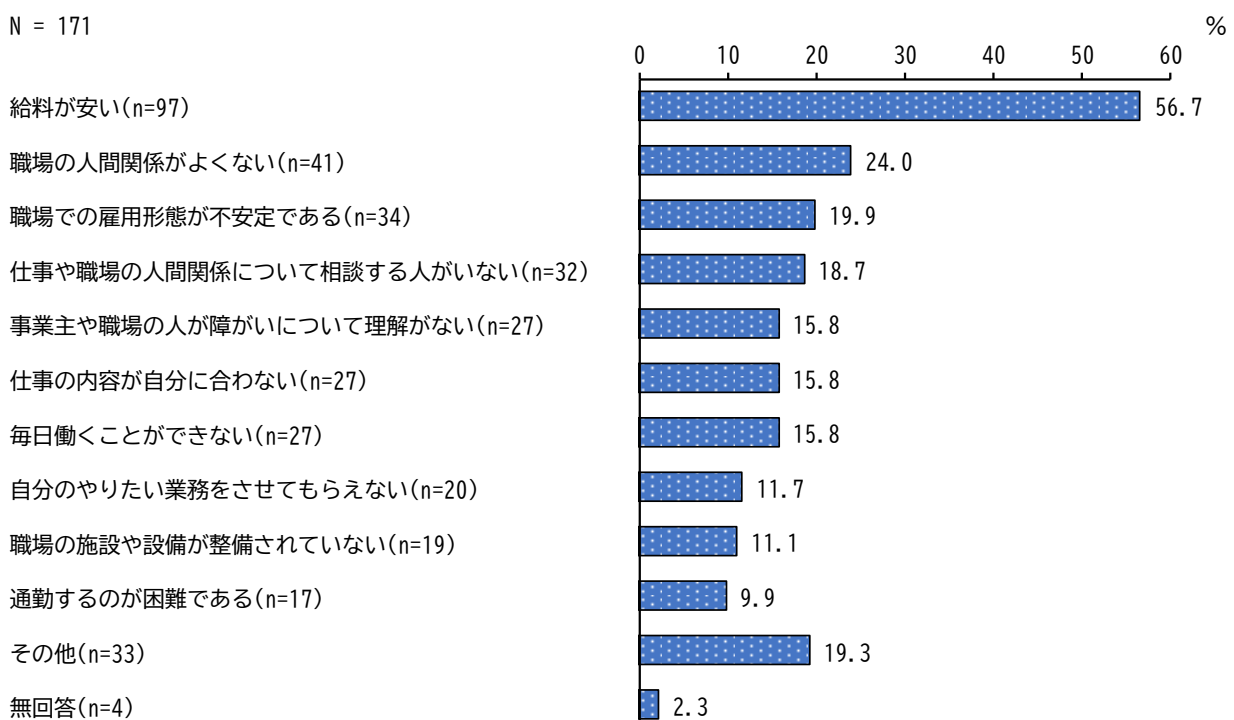
『障がい者』問 28



問 それは、どのような不安・不満ですか。（MA）

『障がい者』問 29

N = 171



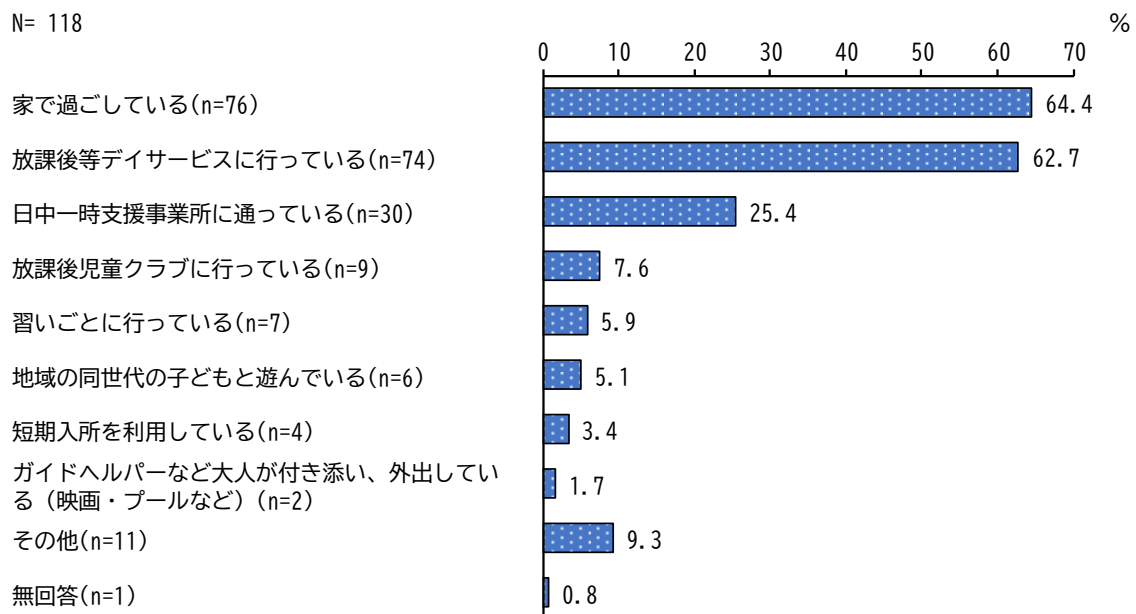
通園・通学に関することについて（障がい児調査のみ）

- 現在の長期休業中や放課後の過ごし方については、6割半ばが『家で過ごしている』と答えています。障がい種別でみると、「身体」では『家で過ごしている』と答えた人が最も高くなっています。また、「知的」「精神」では『放課後等デイサービスに行っている』が最も高くなっています。
- 長期休業中や放課後の活動の希望については、5割弱が『家で過ごしたい』と答え、これに『放課後等デイサービスに行っている』『地域の同世代の子どもと遊びたい』が続いています。

問 あなたは、現在、長期休業中や放課後をどのように過ごしていますか。（MA）

『障がい児』問 16

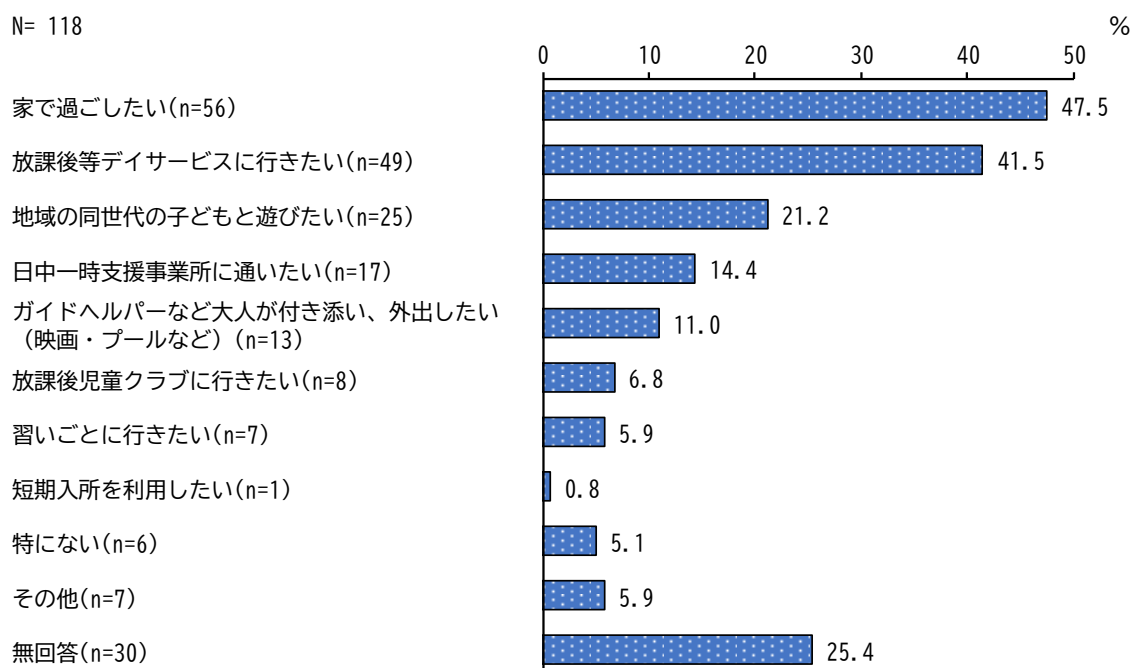
N= 118



問 あなたは、長期休業中や放課後の活動について、どのように過ごしたいと希望していますか。（MA）

『障がい児』問 17

N= 118



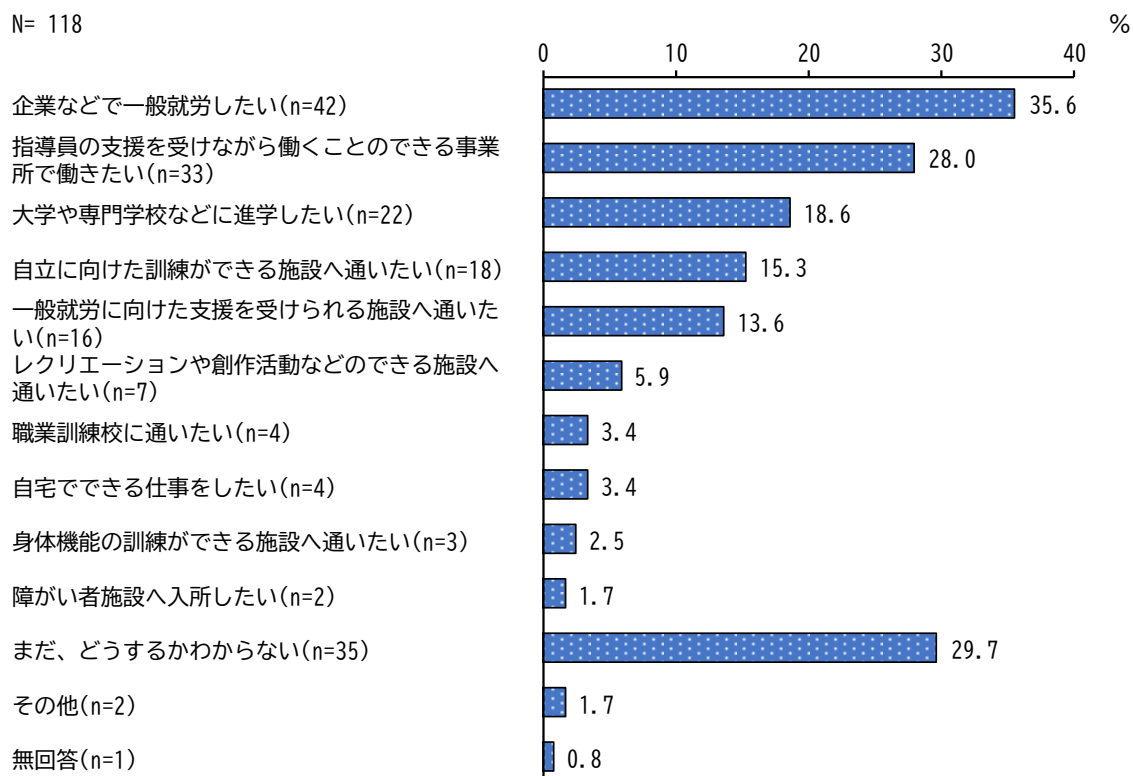
将来の進路について（障がい児調査のみ）

- 『企業などで一般就労したい』が最も高く、これに『まだ、どうするかわからない』、『指導員の支援を受けながら働くことのできる事業所で働きたい』が続いています。障がい種別でみると、「身体」では『大学や専門学校などに進学したい』が最も高く、「知的」では『指導員の支援を受けながら働くことのできる事業所で働きたい』が最も高くなっています。

問 あなたは、将来（学校卒業後）の進路は、どのようにしたいと考えていますか。（MA）

『障がい児』問 41

【障がい児調査】



将来の暮らしや必要な障がい者施策について

- 「障がい者」では『障がいのある人のための各種手当の充実、医療費の軽減』が最も高く、これに『生活介護やデイサービスなどの日中活動のためのサービスの充実』、『障がいのある人への理解を深める福祉教育や広報活動の充実』と続いています。障がい種別でみると、「身体」では『障がいのある人のための各種手当の充実、医療費の軽減』が最も高く、「知的」では『短期入所などの在宅福祉サービスの充実』が最も高く、「精神」では『障がいのある人の理解を深める福祉教育や広報活動の充実』が最も高くなっています。
- 「障がい児」では、『障がい児療育、教育の充実』が最も高く、これに『障がいのある人のための各種手当の充実、医療費の軽減』、『一般企業や事業所における障がい者雇用の促進』と続いています。

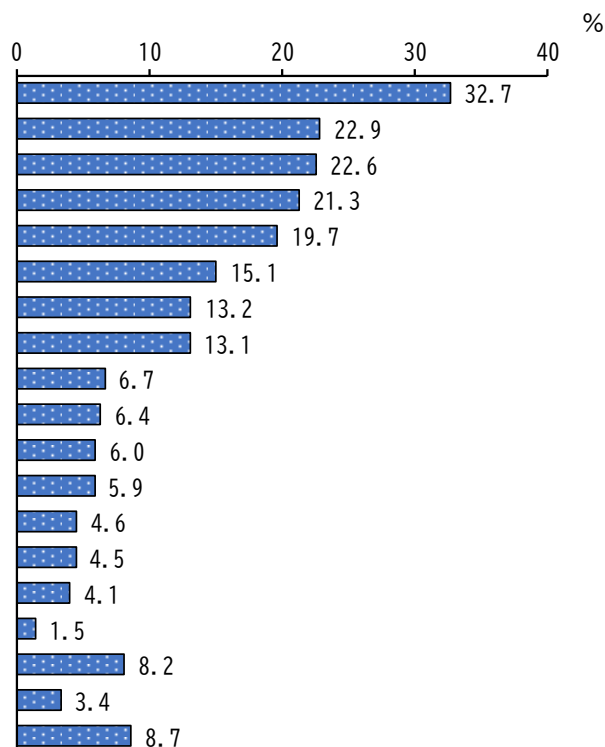
問 あなたは、今後伊賀市が障がい者施策を充実させるため、どのようなことに力を入れていく必要があると思いますか。(MA)

『障がい者』問 59 『障がい児』問 43

【障がい者調査】

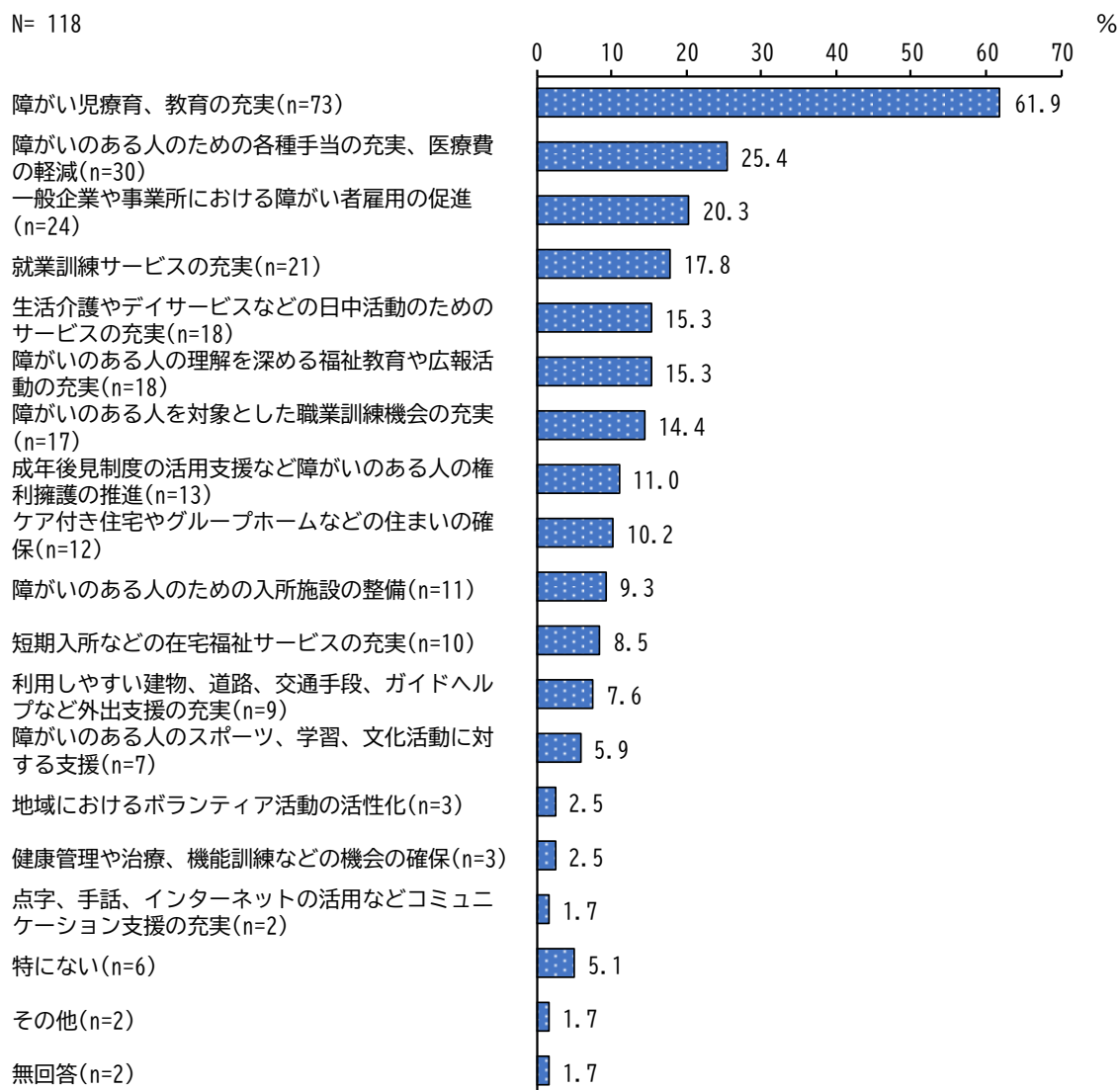
N = 1,431

障がいのある人のための各種手当の充実、医療費の軽減(n=468)
 生活介護やデイサービスなどの日中活動のためのサービスの充実(n=328)
 障がいのある人の理解を深める福祉教育や広報活動の充実(n=323)
 障がいのある人のための入所施設の整備(n=305)
 短期入所などの在宅福祉サービスの充実(n=282)
 ケア付き住宅やグループホームなどの住まいの確保(n=216)
 利用しやすい建物、道路、交通手段、ガイドヘルプなど外出支援の充実(n=189)
 一般企業や事業所における障がい者雇用の促進(n=188)
 成年後見制度の活用支援など障がいのある人の権利擁護の推進(n=96)
 健康管理や治療、機能訓練などの機会の確保(n=91)
 障がい児療育、教育の充実(n=86)
 就業訓練サービスの充実(n=85)
 障がいのある人を対象とした職業訓練機会の充実(n=66)
 地域におけるボランティア活動の活性化(n=64)
 障がいのある人のスポーツ、学習、文化活動に対する支援(n=59)
 点字、手話、インターネットの活用などコミュニケーション支援の充実(n=21)
 特になし(n=118)
 その他(n=48)
 無回答(n=124)



【障がい児調査】

N= 118



災害時のことについて

- 「障がい者」では、『必要な治療や薬が確保できない』が約3割で最も高く、これに『どのような災害が起こったかすぐにわからない』、『障がいのある人に配慮した避難所が近くにない』、『安全なところまで避難することができない』が続いています。
- 「障がい児」では、『避難場所で周りの人とのコミュニケーションがとれない』が4割半ばで最も高く、これに『どのような災害が起こったかすぐにわからない』、『障がいのある人に配慮した避難所が近くにない』、『救助を求めることができない』が続いています。

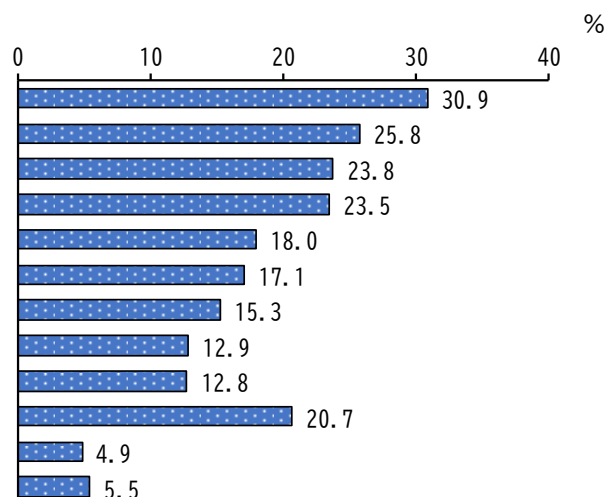
問 火事や地震などの災害が発生したときに、あなたはどのようなことが不安ですか。
(MA)

『障がい者』問 43 『障がい児』問 27

【障がい者調査】

N = 1,431

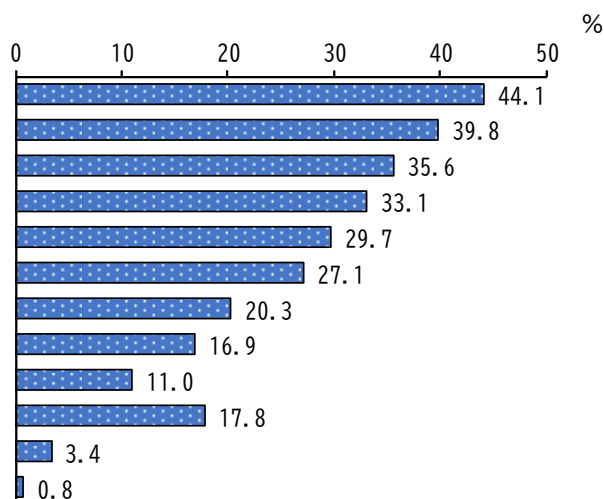
必要な治療や薬が確保できない(n=442)
 どのような災害が起こったかすぐにわからない(n=369)
 障がいのある人に配慮した避難所が近くにない(n=340)
 安全なところまで避難することができない(n=336)
 避難場所で周りの人とのコミュニケーションがとれない(n=258)
 避難する場所がわからない(n=244)
 救助を求めることができない(n=219)
 避難場所で十分な介助をしてくれる人がいない(n=184)
 救助を求めても来てくれる人がいない(n=183)
 特にない(n=296)
 その他(n=70)
 無回答(n=78)



【障がい児調査】

N= 118

避難場所で周りの人とのコミュニケーションがとれない(n=52)
 どのような災害が起こったかすぐにわからない(n=47)
 障がいのある人に配慮した避難所が近くにない(n=42)
 救助を求めることができない(n=39)
 避難する場所がわからない(n=35)
 安全なところまで避難することができない(n=32)
 避難場所で十分な介助をしてくれる人がいない(n=24)
 救助を求めても来てくれる人がいない(n=20)
 必要な治療や薬が確保できない(n=13)
 特にない(n=21)
 その他(n=4)
 無回答(n=1)



障がいのある人への正しい理解について

問 あなたやあなたの家族は、日常生活や地域で、障がいがあるために差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(SA)

『障がい者』問 50 『障がい児』問 34

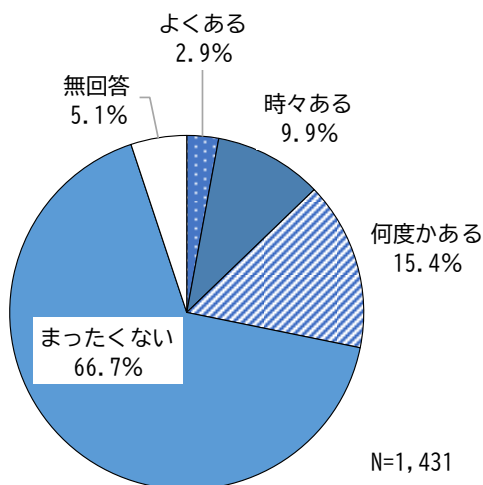
- 「障がい者」では、『よくある』、『時々ある』、『何度かある』を合わせると、『差別を受けたり、いやな思いをしたことがある人』は3割弱となっています。障がい種別でみると、『差別を受けたり、いやな思いをしたことがある人』が「知的」では5割強、「精神」では4割強に上っているのに対し、「身体」では2割弱となっています。
- 「障がい児」では、『よくある』、『時々ある』、『何度かある』を合わせると、『差別を受けたり、いやな思いをしたことがある人』が4割強に上っています。障がい種別でみると、「身体」では6割強、「精神」では5割、「知的」では4割強となっています。

問 障がいのある人や家族に対する差別を、あなたは見たり聞いたりしたことがありますか。(SA)

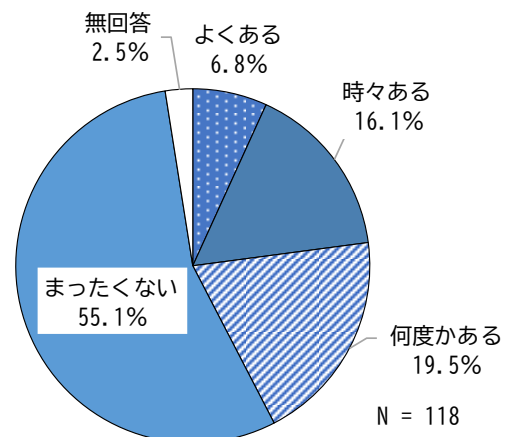
『市民』問 22

- 市民向けアンケートでは、『よくある』、『時々ある』、『何度かある』を合わせた回答は3割強となっており、上記と対比してみると意識の差はあまりみられません。

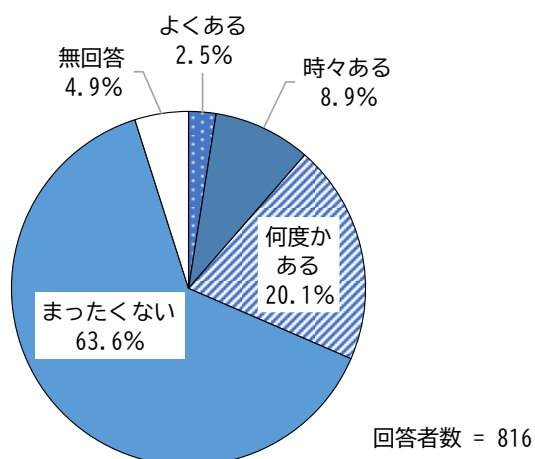
【障がい者調査】



【障がい児調査】



【市民調査】



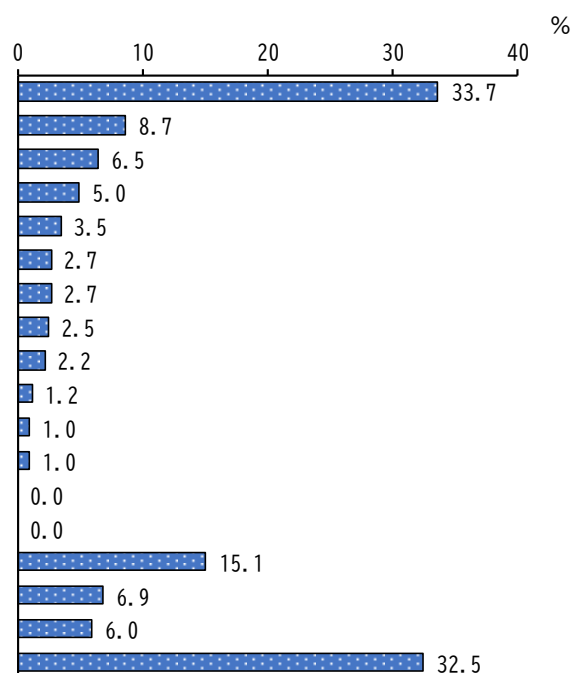
問 その時にだれに相談しましたか。(MA)

『障がい者』問 53 『障がい児』問 36

- 「障がい者」では、3割強が『家族・親族』という回答が最も高く、これに『だれにも相談できなかった』が続いています。また、『相談する人がいない』と答えた人も7%弱いました。障がい種別でみると、すべての障がいで2番目に『だれにも相談できなかった』が高くなっています。
- 「障がい児」では、『家族・親族』が最も高く、これに『だれにも相談できなかった』『友人・知人』が続いています。障がい種別でみると、『だれにも相談できなかった』という回答は、いずれの障害においても1割～1割半ばとなっています。

【障がい者調査】 N = 403

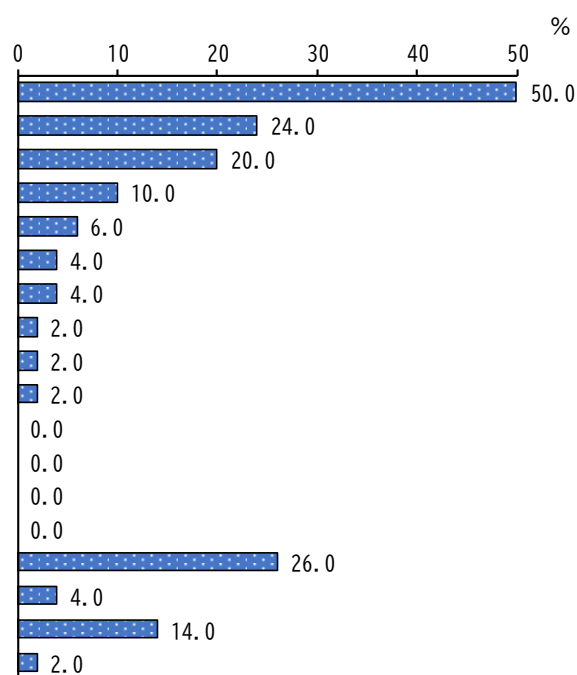
家族・親族(n=136)	
友人・知人(n=35)	
病院（医師・看護師・医療相談員など）(n=26)	
障がい者施設や事業所の職員(n=20)	
職場の人(n=14)	
社会福祉協議会の職員(n=11)	
市役所の職員(n=11)	
相談機関の相談員（障がい者相談支援センターなど）(n=10)	
相談支援事業所(n=9)	
地域の障がい者相談員(n=5)	
自分の属する団体や組織の人(n=4)	
民生委員・児童委員(n=4)	
県の機関（保健所・児童相談所など）(n=0)	
人権擁護委員(n=0)	
だれにも相談できなかった(n=61)	
相談する人がいない(n=28)	
その他(n=24)	
無回答(n=131)	



N= 50

【障がい児調査】

家族・親族(n=25)	
友人・知人(n=12)	
障がい者（児）施設や事業所の職員(n=10)	
病院（医師・看護師・医療相談員など）(n=5)	
市役所の職員(n=3)	
相談支援事業所(n=2)	
自分の属する団体や組織の人(n=2)	
相談機関の相談員（障がい者相談支援センターなど）(n=1)	
民生委員・児童委員(n=1)	
職場の人(n=1)	
社会福祉協議会の職員(n=0)	
地域の障がい者相談員(n=0)	
県の機関（児童相談所・保健所など）(n=0)	
人権擁護委員(n=0)	
だれにも相談できなかった(n=13)	
相談する人がいない(n=2)	
その他(n=7)	
無回答(n=1)	

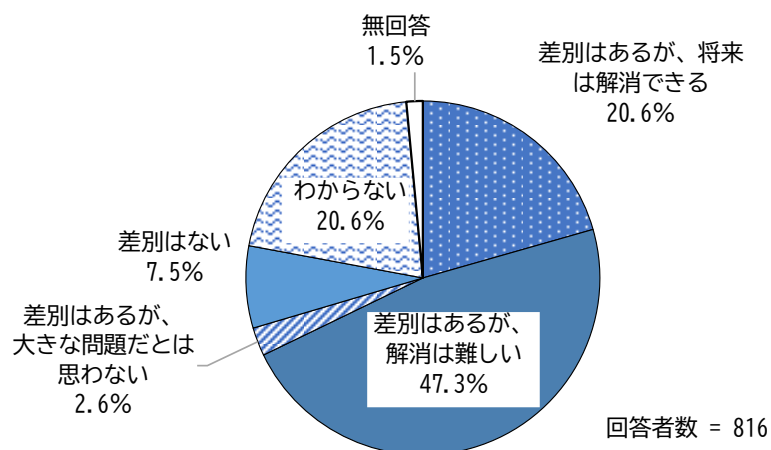


問 障がいのある人や家族が、差別を受けたり、いやな思いをしていることについて、あなたは
どう考えますか。(S A)

『市民』問 21

- 市民向けアンケートでは、『差別はあるが、解消は難しい』の割合が約5割と最も高く、これに次いで『差別はあるが、将来は解消できる』が約2割となっています。

【市民調査】



地域に必要なことについて

- 「障がい者」では『自宅への訪問医療』『だれもがいられる居場所づくり』が最も高く、これに僅差で『自宅への訪問型サービス』が続いています。障がい種別でみると、「身体」では『自宅への訪問医療』が最も高く、「知的」、「精神」では『だれもがいられる居場所づくり』が最も高くなっています。
- 「障がい児」では、『だれもがいられる居場所づくり』が最も高く、これに『福祉教育の実施』、『地域担当の相談機関』が続いています。

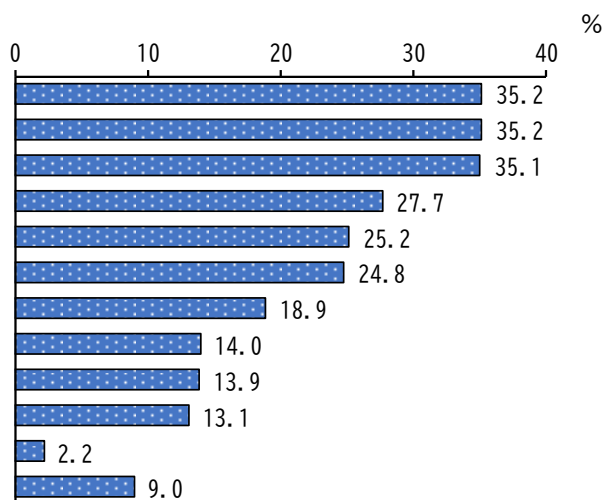
問 障がいのある人もない人もともに地域で暮らしていくためには地域に何が必要だと考えますか。(MA)

『障がい者』問 60 『障がい児』問 45

【障がい者調査】

N = 1,431

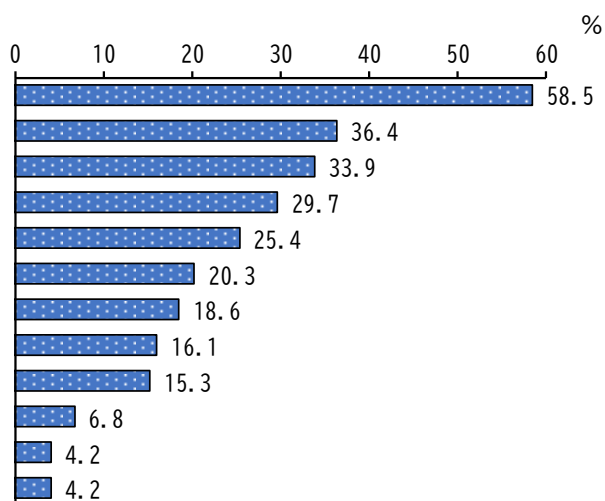
自宅への訪問医療(n=504)
だれもがいられる居場所づくり(n=503)
自宅への訪問型サービス(n=502)
地域のつながり(n=396)
地域担当の相談機関(n=360)
地域の環境整備（バリアフリーなど）(n=355)
自宅のバリアフリー(n=270)
情報のバリアフリー(n=201)
福祉教育の実施(n=199)
ボランティアと地域をつなぐ仕組み(n=187)
その他(n=31)
無回答(n=129)



【障がい児調査】

N= 118

だれもがいられる居場所づくり(n=69)
福祉教育の実施(n=43)
地域担当の相談機関(n=40)
情報のバリアフリー(n=35)
地域のつながり(n=30)
地域の環境整備（バリアフリーなど）(n=24)
自宅への訪問型サービス(n=22)
ボランティアと地域をつなぐ仕組み(n=19)
自宅への訪問医療(n=18)
自宅のバリアフリー(n=8)
その他(n=5)
無回答(n=5)



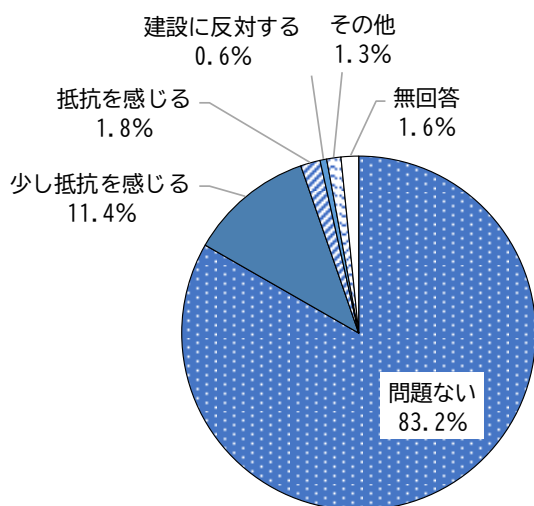
障がい者の施設について

- 市民向けアンケートでは、障がい者施設ができることへの感じ方を障がい種別でみると、『問題ない』が「身体」で8割強で最も高く、「知的」で7割弱、「精神」で5割弱と続いています。

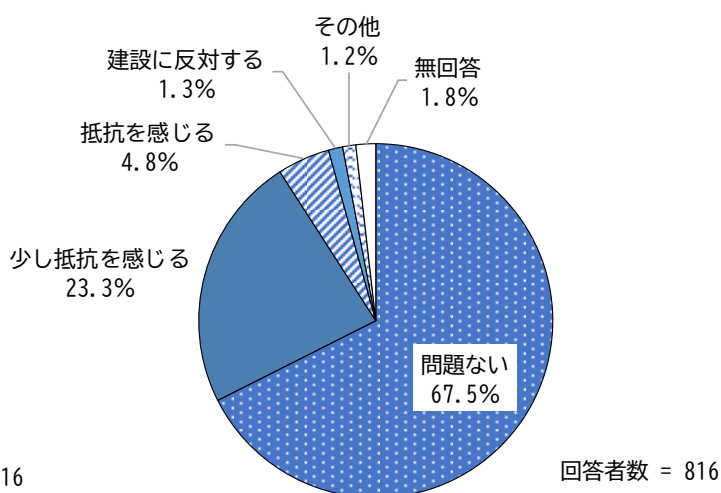
問 もし、あなたの近所に障がい者の施設ができるとしたら、あなたはどう思いますか。
(SA)

『市民』問8

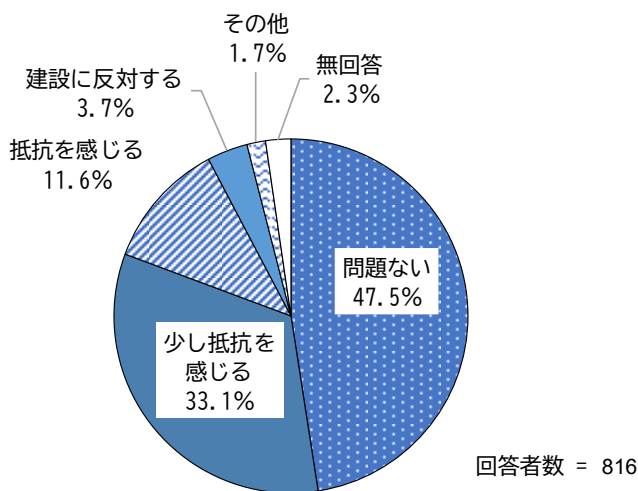
【身体障がい者】



【知的障がい者】



【精神障がい者】



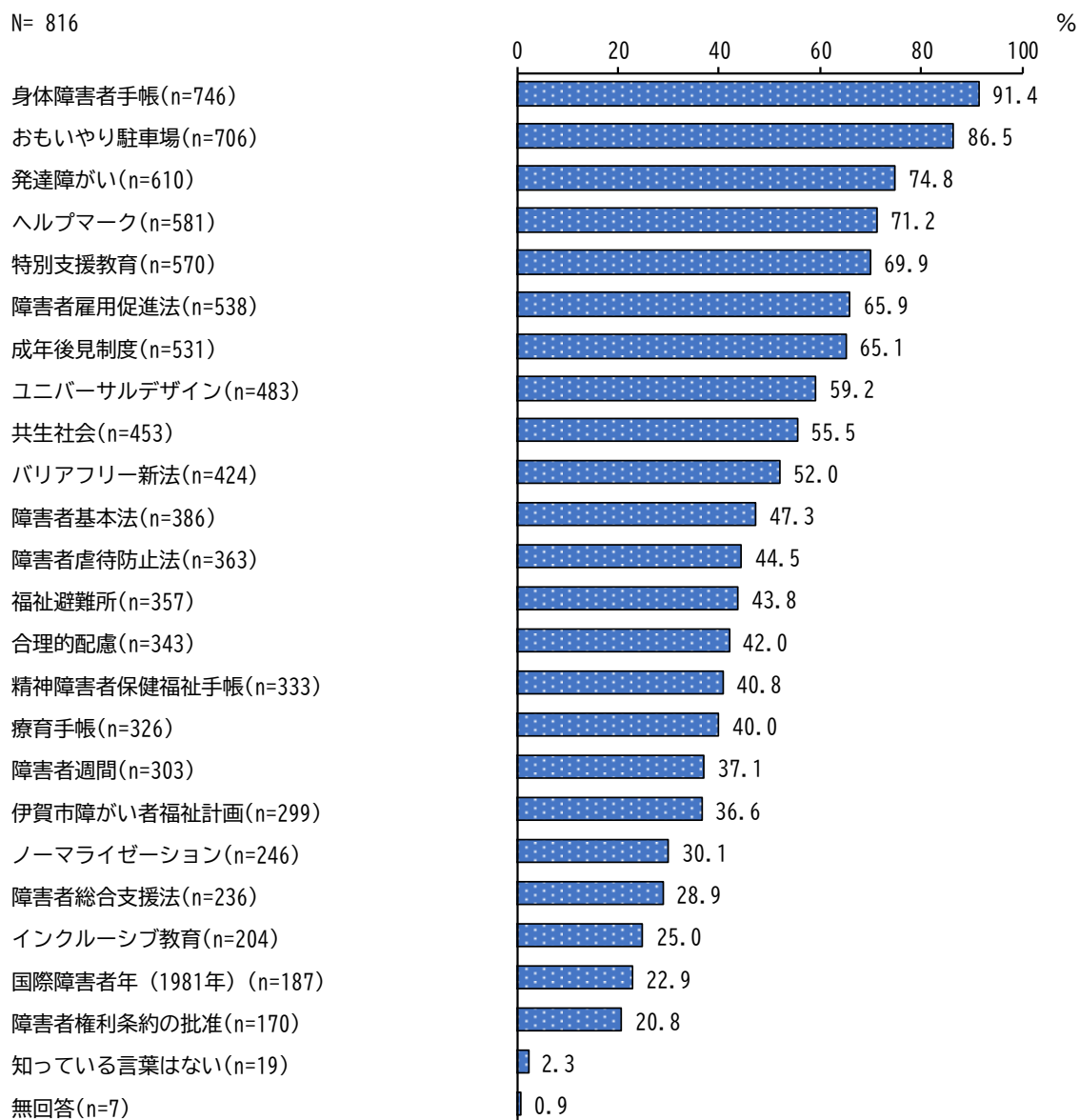
障がい者福祉用語の周知度について

- 障害者福祉に関わる用語のうち最も周知されていたのは、『身体障害者手帳』でした。これに『おもいやり駐車場』『発達障がい』が続いています。

問 障がい者福祉に関する言葉のうち、あなたが知っている言葉はどれですか。(MA)

『市民』問9

【市民調査】



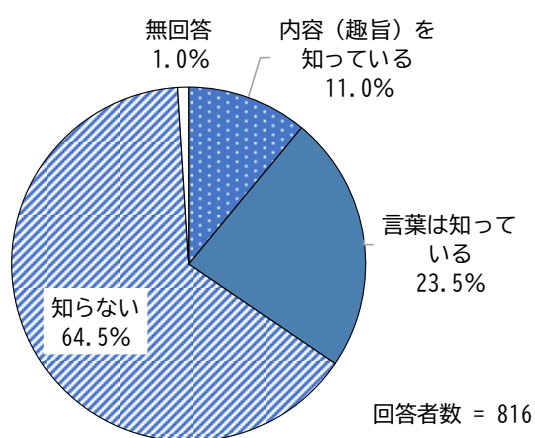
障害者差別解消法の周知度について

- 障害者差別解消法について、その周知度を尋ねると、『知っている』という回答は2割強、『知らない』という回答は8割弱でした。
- 年齢別でみると、30歳以降で年齢が上がるほど「言葉は知っている」の割合が高くなる傾向にあります。また、18～29歳で「内容（趣旨）を知っている」の割合が2割半ばと他の年齢に比べ高くなっています。

問 障害者差別解消法を知っていますか。（S A）

『市民』問 20

【市民調査】



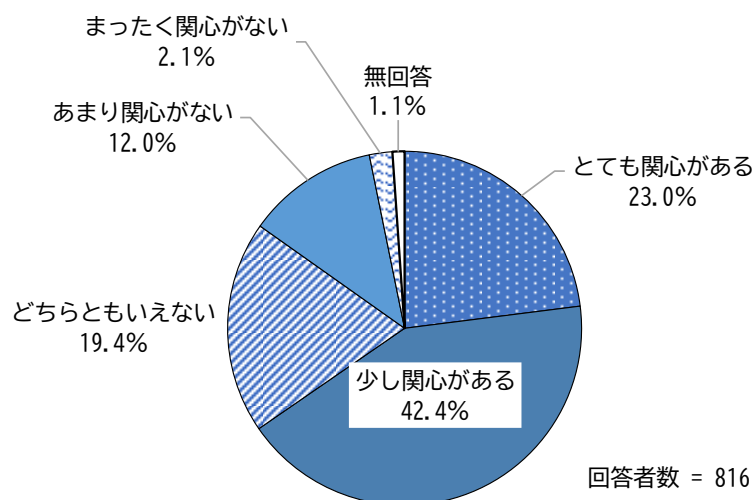
障がい福祉への関心について（市民調査のみ）

- 障がい福祉について関心があるかを尋ねると、『とても関心がある』と『少し関心がある』を合わせた回答は、6割半ばとなっています。
- 年齢別でみると、年齢が下がるほど『関心がない』の割合が高くなっています。また、18～29 歳で「あまり関心がない」の割合が高く、40～49 歳で「とても関心がある」の割合が低くなっています。

問 あなたは、障がい福祉について関心がありますか。（S A）

『市民』問2

【市民調査】

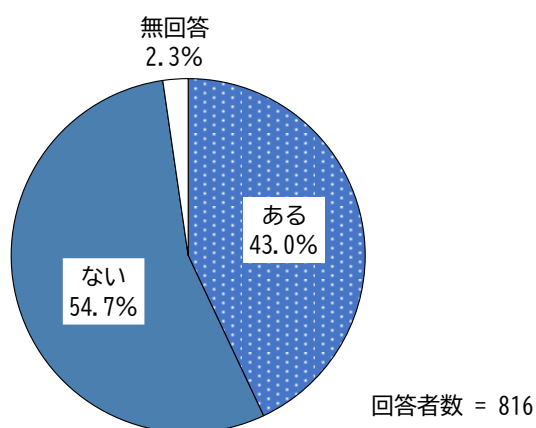


- 障がいのある人が困っている時、手助けをしたことがあるかを尋ねると、『ある』という回答は4割強で、『ない』という回答が上回っています。
- 年齢別でみると、年齢が下がるほど『ある』の割合が高くなる傾向がみられます。

問 あなたは、障がいのある人が困っている時、手助けをしたことがありますか。（S A）

『市民』問5

【市民調査】



- 障がいのある人に対するボランティア活動に参加したかを尋ねると、『参加している』と『以前、参加したことがある』を合わせた回答は1割半ばでした。
- 年齢別でみると、年齢が下がるほど『参加したことがない』の割合が高くなっています。

問 あなたは、障がいのある人に対するボランティア活動に参加したことがありますか。
(SA)

『市民』問 11

【市民調査】

